

## 講演2 「IRに関する大阪の取組み」 大阪府・市特別顧問：橋爪紳也氏

大阪において統合型リゾートに関する検討がどのように行われてきたのか、簡単にお話をさせて頂きたいと思います。

先ほどの栗田さんの説明でおわかりになったように、IRは情報量が多く、初めて理解するには多くのことを学ばなければいけません。私が初めて、このIRという言葉を知ったのは、おそらく2005年か2006年くらい。シンガポールの方で、新しいリゾートの概念として統合型リゾートという言葉が使われ、いったいどういうことかと最初はまったくわかりませんでした。特にインテグレイティッド、統合とは何だろうと。リゾートはわかりやすいのですが、統合のところ、実は従来型とは違うポイントがございます。どういうことなのかということ、ある人に説明を求めましたところ、教えてもらった図がこの図でございます。先ほどの栗田さんのプレゼンでありました、何角形かの図と近い絵でございます。ポイントは様々な機能です。コンベンションや、会議場、文化施設、ホテル、ブランドビル、テーマパークといった様々な機能を中核となるカジノ施設によってまわすというところに意味があります。ですので、このIRにおいては、カジノは経済的なエンジンであるというように教えてもらいました。ポイントは、このインテグレイティッドという点、様々な機能を有するリゾートであること。従来型ではないということ、ひとつの考え方がございます。ですので、2005年以降IRというものが、世の中に概念として示され、実際に2010年に形になったのですが、90年代にさかのぼって見れば、IR型のものがあつたという事例はございます。もう一度申し上げますと、厳密に言うと2005年以降のシンガポールモデルの統合型リゾートに対して、さかのぼって90年代ぐらいから複合的なリゾートがあつた。それを今から考えるとあれもIR型であつたな、というふうに言えるわけです。例えば先程もシドニーの事例がIRだと、栗田さんは指摘されましたが、これもまたIRという概念がない時に出来上がった施設群ですので、さかのぼって、IRの原型の複合型であると紹介されております。シドニーの場合は、ダーリングベイ（ハーバー）の、ホテル、ショッピングセンター、あるいは水族館、動物園等々、あるいは博物館、見本市会

場等々をシドニーのオリンピックに向けて整備したところの一角に、カジノを含むホテルができました。要は、様々な主体が作った様々な施設群の一角にカジノを持つホテルがあると、こういうのがシドニーの当初のモデルでございます。ダーリングハーバーという港を囲むように再開発して、一角にカジノホテルができた。ですので、これはシンガポールのモデルとはまったく違いまして、既存のホテルのひとつにカジノが併設されて、結果的に全体として、後のシンガポールモデルの IR とよく形が似ているということです。違うのは、シンガポールモデルの場合は、一事業者が全体を一気に作り上げるということです。シドニーのモデルでは、複数の事業者がそれぞれ個別の事業を行って、一角にカジノを含むホテルが作られました。シンガポールモデルは、一事業者が全体の絵を書いて作っていた。ところが最近また違うバリエーションが出てきまして、私もまた3月に視察に行くのですが、イギリスのバーミンガムに、大きな国際会議場やホテル集積がございまして、そこにエンタメ、カジノ、ショッピングセンター等が増設される、そういうタイプが出てきております。ですので、新しい形のリゾートが、複合型、統合型など、様々なかたちで世界各国で出来上がっています。

シンガポールの事例を少しだけご紹介します。これはシンガポールでアートイベントをやっていた時の写真でございます。マーライオンホテルと言いまして、枕元にマーライオンがいるという変わったホテルでございます。既存のマーライオンの周りに、一部屋だけスイートのホテルを作って、毎晩一組だけ泊めて、チェックアウトしたあと、我々がオープンハウスで見れるといったアート作品です。このマーライオンの向かいに、ごく最近、マリーナ・ベイ・サンズというものが出来上がりました。このマリーナ・ベイ・サンズだけではなくて、マリーナベイ全体に、多くのホテルとか、会議施設とかが面してございまして、このエリア全体の、サンズそのものが IR ですし、エリア全体も複合型のリゾートの開発、国際会議あるいは見本市を中心としたコンベンション拠点として、姿が変わって来ました。屋上には、ホテル宿泊者の方だけが入ることができるプールやジャグジーがござい

まして、非常に人気を集めています。もう一箇所が、セントーサ島の方でゲンティンが作りましたリゾートワールドでございます。カジノに加えて、ユニバーサルスタジオ、多くのホテルがあり、昨年、水族館、ドームが出来上がりました。セントーサの場合もファミリータイプですので、ホテルもご夫婦で宿泊するホテルに加えて、家族で長期間滞在するタイプもある。IR の一つのポイントは、何泊も連泊をして、IR を拠点に各地で家族連れでも楽しむことができるというところにあるかと思えます。プールも多々、美しいものがございます。ユニバーサルスタジオも大阪の USJ と同じ数のアトラクションを非常にコンパクトにまとめたテーマパークが併設されております。船のミュージアム等もございません。

無料のアトラクションもございまして、セントーサ島の向かい側に、外洋のクルーズの孤島がございます。その間の海にクレーンを使ったダンスの噴水ショー等があり、非常に人気です。オープニングの時は非常に人気を集めていたと思えます。こうして新たにリゾートを作ったのですが、セントーサの場合も島の中にいくつかホテルがございます。最近では高級ホテルがセントーサにはたくさん出来ておりまして、かなりの稼働率で回っているというふう聞いております。

このように、経済的エンジンとしてのカジノ施設を中心とした様々なファシリティをうまく運営していく。採算、収益の合わない施設等も、そのカジノによる支援等があってまわしていくんだ、といった考え方が求められるかと思えます。

大阪におきましては、シンガポールのモデルとはどんなものかというものを、私が座長で民間企業の方々と研究会を立ち上げましたのが、平成 21 年の 4 月でございまして、提案をまとめました。財界セミナーでも、この次の年でしたか、報告をさせていただきましたが、本当にまだ、平成 21 年・22 年段階では、IR という言葉自体、まったく理解を頂けていなかった段階でございますが、シンガポールで何が起きているのかということを実験に研究して大阪等で考えることができないものか、という議論をいたしました。当時の

我々の研究会の提案では、テーマパークのリゾートに加えて、統合型のエンターテインメント施設、ミナミに代表されるような大阪の観光資源、あるいは、京都、神戸等、関西広域の観光資源等、全体をうまくリンクしながら、大阪を中心とした観光の振興、あるいは、コンベンションの振興を図るために拠点があるのではなかろうかという議論をしておりました。我々の議論の当初の考え方というのは、関西国際空港を中心に1時間圏内を鉄道・車で行くと、当時の計算ですが、2千万人。航空機で1億人。3時間圏内で12億人。7時間圏内で20億人の大人口集積があります。大阪が魅力的になれば、こういう人たちを対象とするようなリゾートができるのではないだろうかというものです。大阪商業大学の佐和先生に、仮に大阪にこのようなシンガポールモデルができたらどうなるかということで、波及効果等を計算頂いた数字がございます。年間来場者数5千万人という仮定の上で3万人フルタイムの雇用が増えるのではなかろうかとの議論でございました。いくつかの仮の絵を書いたり、パースを描いたりもしております。

こういう私共研究界の提案を受けていただき、大阪府の方に大阪エンターテインメント都市構想推進会というものを立ち上げて頂くことになりました。平成24年7月のことでございます。この検討会での検討を進める中で、専門家等に入って頂きながら議論する中、平成22年度に大阪府の成長戦略が発表されました。そこにおきまして、5つの成長エンジンで集客力、人材力、産業技術力、物流、人流、インフラ、都市の再生等々を回すという中で、集客力を高めるには世界最高水準のエンターテインメント都市をつくる。その核となるのがカジノを含む統合型リゾートなどの促進だと、掲げて頂くこととなります。我々の検討会では、基本コンセプトというものを作ろうということで、これ以降、作業を進めております。この基本コンセプトをつくるための考え方としては、1つには国際観光の振興、都市魅力の創造、地域経済の活性化、加えて、違法カジノの排除、ということを目指しました。コンセプトをつくる上では、エンターテインメント機能、コンベンション機能、MICEを重点化しよう、あるいはMICEの振興となる拠点をつくろうと。あと、世界最高

水準のエンターテインメントリゾートをつくろうと。また、関西の世界的な観光資源のコラボレーションを考えようということも掲げました。これを簡単に言うと、先程ご紹介してきました、あるいは日本の統合型リゾートがベンチマークとしておりますシンガポールの二つの施設になる。1つはエンターテインメントに突出した施設、1つは MICE に突出したリゾート。大阪で考える場合は、この双方が必要であろうということで、シンガポールでは2つに分割されている機能を両方我々は必要だという考え方を示したところでございます。で、基本コンセプトをつくる作業に入りまして、素案までつくりました。まだ成案までは至っておりません。基本コンセプトの案の中身でございますが、平成 22 年度段階の我々が検討していた頃は、国の動きといたしましても、まだまだ動きが現状ほどではなくて、国際観光産業議員振興連盟等で議論が進んでいたという段階でございました。我々が前例とした先程の私共の研究会の議論を受けて頂いておりますので、関西圏の2千万人以上のリーチと、海外からのアクセスの良さと、あと様々な大学、ホテル等の集積を含めて、大阪はポテンシャルがあるのだ、ということを示しました。観光資源の開発、創造、ということを考えながら、特に大阪だけではなくて関西圏全体を牽引しているような施設を考えたい、加えて、海外からの投資を呼び込むことによる日本経済の活性化と、大きな雇用効果などが、効果として想定されるであろう、ということで、素案をまとめたところでございます。もう少し具体的には、3つの目標と7つの視点というふうに、整理をして掲げるようにいたしました。目標といたしましては、関西全体への波及効果、観光客からビジネス客まで誰もが楽しめる世界最高水準のエンターテインメント機能をつくろうということと、東アジアにおける情報創造発信機能をもった MICE の創出。繰り返しになりますが、エンターテインメントと MICE の双方に力点を置こう、ということでございます。1つの視点として、大阪の新しいアイコン、ランドマークとなるような施設であるべきであろうと思います。2つ目といたしては、MICE 機能の創出、3つ目はエンターテインメントの創出、4つ目に関しましては、ゲーミングに関するきちんとした制限。なかなか法案が見えていない時期でございましたので詳しくは書いておりませんが、制限が必要であろうと思いま

す。5つ目といたしまして、広域連携。6つ目といたしまして、当時はCO2を減らすという議論もございまして、環境というものが非常に重要であったということで、環境の技術を駆使することも、日本らしい大阪らしいIRの1つの考え方であろうと思います。当然セーフティネットとか、地域に貢献するような施設でなければならないとして視点に掲げました。いくつかの複数の事業者ヒヤリング調査を行い、当時の平成22年度段階での要望、意見交換をいたしまして、都心から30分くらいの場所で、国際空港から60分くらいの場所であればよかろうとイメージしました。敷地規模は8~30ヘクタールは最低限必要であるというような意見を頂いております。1事業者で30ヘクタールですから3事業者とかになってきますと、60、70~80あるいは100ヘクタール等の用地がございましたら、複数事業者ができるのではなかろうかと考えたものであります。後ほど専門家の先生からお話がございますが、依存症対策も世界の最新のグローバルスタンダード、あるいはそれ以上のものが必要であろうと思います。また当然でございますが、青少年の対応、犯罪、不正防止の対応等も必要でしょうし、地域に貢献する施設であるというのが重要であると思います。この、地域に貢献するという点に関しまして、参加していた議員、専門家からもいろいろな意見がございました。例えば新しい文化産業を創出することにもIRは貢献するのではなかろうかと。世界的に有名なシルクドソレイユというサーカスのエンターテイメントのグループが、ラスベガスの周りの施設から世界へ羽ばたいたということもございました。新しいエンターテイメント、文化的な事業等もIRから可能性が広がるのではなかろうかという議論もいたしました。国への要望ということで、IR導入をもし国として意思決定していく場合は、なによりも地域のためとする制度と設定をお願いして行かなければいけないだろうと思います。地方公共団体も、あるいは地域社会にも還元されるような事業のスキームを、考えて頂きたいと声を上げて行かなければなりません。国としては、セーフティネット対策と公共インフラ整備にも協力いただけるようなことを考えていくべきであろうと思います。また、地方公共団体が、区域指定に関して、事業者案をわりと柔軟に選定できるように区域指定ということが想定されていますが、できれば広いエリア

での区域指定というものが望まれるというふうなことを、大阪での議論では、素案の段階では思案してございます。この素案を受けて、例えば昨年1月、知事・市長が国の方に提案をいたしまして、様々他の案件もある中に1項目、統合型リゾート、IR立地に向けた整備ということ強く申し入れていただきました。

このような流れでありまして、平成22年度段階、大阪府中心に検討の場が設けられて来ましたが平成25年から大阪府・大阪市共に考えていこうという体制が動き出しまして、昨年12月24日に、IR立地準備会議が立ち上がり、大阪府・大阪市それぞれが役割を持ちながら次の段階に入っていくというための準備の会議が、知事を本部長、市長を副本部長として形にしていただけただけでございます。特に大阪府の方といたしましては、お手元資料が概要でございますが、基本コンセプトもまだ素案ということで、もう一度議論をして形に詰めて行かなければならないなと思っているところでございます。今後とも、大阪府・大阪市共に、是非ともお願いを申し上げたいのですが、国会の方で議論が始まる中で、是非とも大阪誘致という考えを示していただけばということで、大阪における検討の概要につきまして私の方からお話させていただきました。

現状、大阪市側でよく出てきますのは、ベイエリアあたりということでして、例えば、これは海上から大阪を東の方へ見返した写真。夢洲、咲洲、舞洲です。このあたりで検討できないものかということで進めているということを最後に申し上げて、私からのご報告とさせていただきます。